

6月定例会のあらまし

補正予算

平成18年度一般会計では、有馬富士共生センターのサービスコーナー諸証明発行交付用機器の設置及び管理費203万円の減額、新規事業として妊婦健康審査助成事業費1,125万円、コミニティ活動備品整備費250万円など、あわせて1,172万円の補正です。

平成17年度一般会計では、三田駅前一番館基金積立金3,385万円、グリーン・クリン基金積立金463万円、訴訟終結に伴う裁判事件解決金210万円など、あわせて4,058万円。市民病院事業会計は、人件費1,927万円を増額補正。

平成18年度老人保健医療事業特別会計は、平成17年度の収支不足を補てんするため、繰上充用金として3,900万円の補正です。

条例

今回の三田地域振興株式会社の問題において、市政の混乱を招いたことに関連し、市長と助役、収入役の本年7月から9月までの給与を減額するため制定する「特別職に属する常勤の職員の給与に関する条例の特例に関する条例」。

人と自然の共生を図るため、里山をとおした都市と農村の交流を進めることで地域住民のコミニティ意識の醸成と住民福祉の増進に寄与することを目的に設置

される「三田市立有馬富士共生センター条例」。

国の医療制度改革大綱に基づき、少子化社会を改善し育児世代を支援する医療制度改革の一環として出産一時金の額の引上げ等を行なう「三田市民健康保険条例の一部を改正する条例」など11件です。

契約等

フラワータウンの健康増進ゾーン内の特別養護老人ホーム整備用地の取得並びに処分について。上野台中学校校舎及び屋内運動場耐震補強工事、八景中学校プール改築及びグラウンド改修工事の請負契約など4件です。

人事

平成18年6月30日をもって任期が満了する三田市固定資産評価審査委員会委員に森川憲二氏(再任)を選任することに、また、小田芳三氏の委員辞任に伴う三田市農業共済損害評価委員会に東浦優氏(新任)を委嘱することに同意しました。

市政について聞く(一般質問)

6月定例会では、12名の議員により、2日間にわたって、一般質問を行いました。ここでは、主な質問と答弁の要旨を掲載します。

三田地域振興株の諸問題

市長の政治責任

問 コンプライアンス(法令遵守)の欠如、ルール無視が最大の原因は、市長の毅然とした態度や指導・監督の欠如と考える。再開商業ビル(キッピーモール)の建設を強引に着工し、昨年9月15日オープンの上命題が、職員に法の遵守や金銭感覚をマヒさせる結果となった。これら一連の決断をした市長の責任は重大である。市長自ら職を辞すべきと考えるが見解を伺いたい。

答 コンプライアンスに關する不祥事の発生に伴い市政に混乱を招いたことや市民や議会、多くの関係者の皆様方に大きな不信感をもたらしたことは、これまでに再三申し上げているが、重大で深刻な事態と重く受け止め、私自身深く反省している。

三田市を取り巻く環境は大変厳しい状況にあり、このような状況下で、市政を停滞させることは許されないため、職を辞することは市長の責任を放棄するものと考えている。

市民の信頼回復

問 駅前商業棟に関する不祥事において失った市民の信頼をどのように回復するのか。また、第三者のチェック機能も必要と考える。

答 「職員の倫理等に関する規程」の内容や制度運用の問題点を検証する。また、本年4月1日施行の「公益通報者保護法」に基づく「内部通報制度」、また職員の職務遂行に関する「不当要求行為等への対策に関する規程」について、各制度、規定の内容などを検証し、公正で公平な市政の実現に向けた望ましい法整備と適正な運用が確保される仕組みの構築を図ることが必要である。

現在、庁内に「コンプライアンス推進委員会」を設置

地域振興株に期待する役割

問 三田地域振興株にどのような役割を期待しているのか。また会社法の施行に伴い、会社運営の自由度が増したといわれているが、三田地域振興株は、市の出資比率が50%を超えており公共性が高い。今後、会社の運営をどのように取り組むのか。

答 三田地域振興株の役割は、所有する各施設の適切な管理・運営とキッピーモールの魅力向上による集客力アップなどに努めること

質問者名

岡田 秀雄 (盟正会)	家代岡 桂子 (市民クラブ21)
美藤 和広 (民主・市民連合)	中田 初美 (日本共産党)
松岡 信生 (公明党)	関本 秀一 (新風みらい)
坂本 三郎 (市民クラブ21)	野村 弘子 (民主・市民連合)
前中 敏弘 (新樹)	城谷 恵治 (日本共産党)
平野 管子 (公明党)	三木 圭恵 (新風みらい)

地域振興株の役員

問 三田市長と三田地域振興株の社長の兼任は不可能と考える。代表取締役民間人の登用を図るため各

とで三田駅前が中心都市核として、また三田市の玄関口としてふさわしいまちとなるための一翼を担うことがその役割である。

現在は、キッピーモールが魅力ある商業施設となるよう努力しているが、テナント誘致や販売促進など営業面をさらに強化させることで、商業施設の魅力がより高まると考えている。

今後は三田地域振興株の役員に民間からの人材登用や経営組織を検討し、その担うべき公的な役割を果たしつつ三田地域振興株が民間会社としての経営ノウハウを十分発揮することができよう努めていきたい。

方面に働きかけていると聞いているが、人選について現在の状況はどのようなになっているのか。

答 三田地域振興株の役員は、キッピーモールがオープンするまでは収益力の向上のため人件費を抑制しながら、順調に会社を発進できるような、同社の出資比率が最も大きい三田市が責任を持って経営に当たる必要があることから、市長を含め、助役、収入役がとめてきた。

しかし、キッピーモールがオープンした現在においても同社は、公共性の大きな業務を担っており、三田市が最大株主としての権限と責任を明確にするために引き続き市から代表権限のある取締役就任が必要である。またあわせて商業ビル運営のノウハウや実績を持った人物にも代表権限のある取締役就任していただく必要があると考えている。

現在は、商業展開の責任者にふさわしい人物の人選を行なっている。今しばらく時間をいただきたい。



▲三田地域振興株主総会(キッピーモール)